
日本インターンシップ学会 NEWS LETTER

2011年度 NO.1

目次

- ・ 会長再任にあたって
- ・ 第12回大会を開催して
- ・ 第13回大会を開催するにあたって
- ・ 理事会報告
- ・ 2011年度総会報告
- ・ 会則改正について
- ・ 2010年度事業報告及び決算報告
- ・ 2011年度事業計画及び予算
- ・ 年報編集委員会報告
- ・ 広報委員会報告
- ・ 企画研究WG報告
- ・ 10周年記念事業WG報告
- ・ 2011年度高良記念研究助成対象者決定
- ・ 2011-2012年度役員について
- ・ 2011-2012年度委員会構成について
- ・ 支部活動報告
(北海道支部、関東支部、関西支部、九州支部)
- ・ 事務局からのお知らせ
- ・ 会員情報

会長再任にあたって

このたび会長に再任され、ひきつぎ皆様とともに学会活動を牽引していくことになりましたので、どうぞよろしくお願ひいたします。

これまでの任期2年間で振り返ってみますと、キャリア教育・職業教育への社会的な関心の高まりのなかで、多くの大学等の教育機関がインターンシップの導入・充実・深化を図り、また、本学会でも会員数の着実な増加が続いております。そうした中、今年3月11日の東日本大震災は、いまほんとに大切なことは何かを日本中が問い直す、世紀的な転機となろうとしています。「絆」はそれを象徴するキーワードのひとつです。インターンシップも、若者の過去・現在・未来をつなぐべく、企業・コミュニティと学校との絆を通して実施され、また若者と学校とコミュニティとの絆を強めていく教育活動として、その意義はますます重要になっていくものと考えます。

2年前のニュースレターでは、「学術と実践との往還のアゴラ」を目指して3つの学会運営方針を示しておきましたが、その成果が問われています。まずそうした方針にもとづく活動の進捗状況を確認し、あらためて今後の充実・深化にむけての活動計画についてお示ししておきたいと思っています。

第一の方針は、＜学術＞的アプローチです。広範囲の関連学会との連携協力をとりながら、異なるバックグラウンドをもった会員が共同して行う研究活動を積極的に支援・奨励していくことをめざし、企画研究ワーキンググループを編成しました。後述のワーキンググループ報告にもありますが、国際的な学術団体であるWACEに加盟するとともに、ワーキンググループメンバーを中心に、現在、2つの科研共同研究と、1つの先導的の大学改革委託事業を推進しています。また、学会大会の新しい試みとして、今回の鳥取大会において総括セッションを設けていただき、インターンシップにかかる実践をどのように研究し学術的報告へと結びつけていくのかを考えていく

機会を準備しました。年報編集委員会等とも協働しながら、また皆様のご協力を得て、ワーキンググループ活動をより一層充実させていきたいと考えています。

第2には、＜実践＞的アプローチです。インターンシップの実践をより充実・向上させていくためには、それぞれの地域レベルでの関係者による実践的・開発的な研究交流が大切です。地域レベルでの研究会の活性化を目指して、この度、北海道、関東、関西、九州の4地域ブロック単位での支部体制が整いました。そうした地域支部ベースでの研究交流を通して、大学・学校関係者と企業・コミュニティ関係者が相互の関心を理解し、秀逸なインターンシップモデルを開発していくことができると思っています。今期は、地域支部の研究会などによる研究報告の中から秀逸な実践報告を選定して顕彰するためのワーキンググループを設置しました。顧問となっていた槇本淳子会員の名を冠した槇本記念賞ワーキンググループです。

第三には、＜アゴラ＞的アプローチです。学会が、学術や実践にかかる会員相互の情報交換や、学会内外の対話の場となるべく、広報活動の充実を図ってまいりました。その成果はwebサイトやNEWS LETTERを通してご確認いただけたと思います。広報委員会等を通して、今後とも、広範囲の関係者との発信、受信、対話の機能を高めていきたいと考えております。

また、今期はあらたに組織運営ワーキンググループを組織し、学会の役員選出の規定や、地域支部組織の在り方などを議論していただくことにしています。

学術的なアプローチと実践的なアプローチをそれぞれ確立しながら、会員が主体的に参画する対話の場＜アゴラ＞を築いていく、そのような目標に向けての学会運営に尽力していきたいと存じます。どうぞ皆さま方のご協力をお願い申し上げます。

(会長 吉本 圭一・九州大学)

第12回大会を開催して

去る9月17日(土)・18日(日)の2日間、鳥取大学鳥取キャンパスにて第12回大会を開催いたしました。参加者数は81名と前大会を下回りましたが、非会員の方々も含め全国各地よりまんべんなく積極的に運びいただき、心より感謝申し上げます。

1日目は、まず特別講演として本学の乾燥地研究センター長 恒川篤史教授にご講演いただきました。鳥取のローカルな話題から、地球規模のまさにグローバルな話題まで、聴衆を全く飽きさせない素晴らしいお話でした。次のシンポジウムでは、大会テーマ「インターンシップの『成果』を考える」に沿って、高校から大森順子会員、大学から土肥眞琴会員、産業界から西村善和氏(非会員)をシンポジストに迎え、コメンテーター・吉本圭一会員による論点整理とコーディネーター・稲永由紀会員による全体統括が行われたことで、たいへん密度の濃いシンポジウムとなりました。また高良記念研究助成報告では、田崎悦子会員、酒井佳世会員により、いずれも新奇性に富むすぐれた研究発表が行われました。

2日目は、午前の自由研究発表にて6セッション計16の発表が行われ、発表者とフロアとの活発な質疑が繰り広げられました。また今大会独自の取り組みとして、ランチョンセッション形式の「大会総括」を全日程の締めくくりにおきました。自由研究発表の司会(報告担当)各位によるセッション別報告のあと、話題提供として亀野淳会員から会員アンケートの分析結果が紹介され、最後に館昭会員から、今後の本学会の課題の提示も含めた2日間全体の総括コメントがなされました。

中央教育審議会の答申や日本経団連の倫理憲章での言及に代表されますように、インターンシップのあり方が各方面からあらためて関心を集めている状況下での大会でしたが、「インターンシップのこれから」、さらには「学会のこれから」について考究を深めることができた、きわめて有意義な2日間だったと思っております。

なお、大会実行委員会の組織的基盤が十分でないなか、今大会の開催にあたりましては本当に多くの方々から温かなお力添えを賜りました。幸い大過なく全日程を終えられましたのも、お世話になりましたみなさまのおかげでございます。この場を借りましてあらためて厚く御礼申し上げます。それでは次回、玉川大学での第13回大会のさらなる盛會を祈念して結びといたします。

(第12回大会実行委員長 長尾 博暢・鳥取大学)

第13回大会を開催するにあたって

本学は2004年より法人会員として参加をし、調査・研究を進めてまいりました。この度、第13回大会校をさせていただくことを光栄に感じております。第12回大会での総会の際、ご紹介をさせていただきましたが、2012年9月8日(土)・9日(日)の2日間の開催となりました。テーマ及びプログラムにつきましては、構想中ではありますが、早急に決定したいと考えております。

初めて、玉川の丘に来られる皆様に、本学を少し紹介させていただきます。玉川学園・玉川大学(学園長・学長 小原芳明)は昭和4年創設者小原国芳昭により設立され、幼稚園から大学・大学院まで同一キャンパスに配し、約20,500人(通信学部を含む)が590,000㎡の広大な同一のキャンパスに通う総合学園としてきました。玉川は創立以来「全人教育」を教育理念の中心として、人間形成には真・善・美・聖・健・富の6つの価値を調和的に創造することとし、それは学問・道徳・芸術・宗教・健康・生活の6方向の人間文化を豊かに形成することと考えてきました。その理想を実現するために12の教育信条を掲げて、総合学園として一貫した教育活動を実施しています。

また、玉川大学のある小田急線玉川学園前駅までは新宿駅から31分(快速急行利用)です。

本学が位置する町田市は人口が約42万人で、東京の南端に位置する田園都市で、市内には大学・短大は10校あります。JR 横浜線町田・小田急線町田駅を中心に繁華街が形成されており、玉川学園までは1駅(4分)です。

羽田空港から町田バスセンターまでリムジンバスで1時間、東海道新幹線 JR 新横浜駅からは21分です。

日本憲法制定に深く関わった白洲次郎の自宅で洋風古民家である旧白洲邸武相荘があり、また、FC 町田ゼルビアの本拠地となっております。

皆様のお越しを心よりお待ち申し上げます。

(第13回大会実行委員長 折戸 晴雄・玉川大学)

理事会報告

2010年度第6回理事会(6/26@札幌エルプラザ)

(1)入退会申請者について

入退会の申請者について、すべて承認された。

(2)第12回全国大会の運営について

長尾大会実行委員長より、第12回大会の運営について説明がなされ、了承された。

(3)理事選挙、会長選挙の結果について

横山皓一選挙管理委員長より、会員による理事選挙により新理事候補20名が決定したこと及び同候補全員からの応諾があったこと、新理事候補による会長選挙により吉本圭一会員が新会長候補に選出されたことが報告された。

(4)高良記念研究助成審査委員会について

委員の互選により椿委員が委員長に選出されたことが報告された。

2011年度第1回理事会(8/23@久留米大学サテライトキャンパス)

(1)入退会申請者について

入退会の申請者について、すべて承認された。

(2)2010年度(平成22年度)決算案及び監査報告について

2010年度決算案及び監査報告について、原案どおり承認された。

(3)2011年度(平成23年度)予算案について

2010年度予算案について、一部修正の上、承認された。

(4)第12回全国大会について

長尾大会実行委員長より、第12回全国大会の準備状況が報告された。

(5)高良記念研究助成について

真鍋委員より、高良記念助成について、同審査委員会の選考結果を踏まえ、2名を助成対象者としたい旨の提案があり、承認された。

(6)会則の改正について

事務局長より会則の改正についての提案があり、審議の結果、次回の理事会で会則改正案を提示し、承認後、総会に諮ることについて了承された。

2011年度第2回理事会(9/17@鳥取大学)

(1)入退会申請者について

入退会の申請者について、すべて承認された。

(2)総会議題について

事務局長より、総会の議題についての提案があり、了承された。

(3)次期大会校について

会長より、次回の全国大会の開催場所、次期等についての説明があり、承認された。

(4)2011-12年度役員、委員会組織について

会長より、2011-12年度の役員(案)、委員会・WG(案)について説明があり、承認され、総会に諮られることとなった。

(事務局)

2011年度総会報告

2011年度総会が、2011年9月17日(土)鳥取大学において開催され、以下の報告・審議が行われた。

(1)2009年度事業報告

原案どおり承認された。

(2)2009年度決算報告及び監査報告

事務局長より決算報告後、監査報告があり、承認された(詳細は「2010年度事業報告及び決算報告」を参照)。

(3)会則改正について

会長より会則改正の提案があり、承認された(詳細は「会則改正について」参照)。

(4)2011-2012年度役員選出について

横山皓一選挙管理委員長により理事選挙及び会長選挙の結果が報告された。この結果に基づき、新理事20名及び新会長として吉本圭一会員が承認された。その後、会長指名の理事、副会長、常任理事、事務局長、顧問、名誉会長についての報告があった。さらに、監事については、伊藤文男会員及び小川浩平会員が推薦され、承認さ

れた(詳細は「2011-2012年度役員について」参照)。

(5)2011-2012年度委員会組織について

新会長より説明があった(詳細は「2011-2012年度委員会組織について」参照)。

(6)2011年度事業計画及び予算について

事務局長より提案があり、原案どおり承認された(詳細は「2010年度事業計画及び予算」参照)。

(7)高良記念研究助成について

2011年度採択者の高橋秀幸会員、手嶋慎介会員への研究助成金及び賞状の授与が行われた。

(8)第13回大会について

会長より、次回の年次大会を2012年9月に玉川大学において折戸晴雄会員を大会実行委員長として開催を予定している旨の説明があり、承認された。

(事務局)

会則改正について

「理事会・総会報告」で報告いたしましたとおり、総会にて下記のとおり会則が改正されました。

改正案
(退会) 第8条 退会を希望する会員は、書面を持って毎年6月末までに理事会に申し出るものとする。
(役員の選任) 第11条(略) 2. (略) 3. 会長、副会長、常任理事は原則として選挙によって選出された理事の互選とする。
現行
(退会) 第8条 退会を希望する会員は、書面を持って毎年3月末までに理事会に申し出るものとする。
(役員の選任) 第11条(略) 2. (略) 3. 会長、副会長、常任理事は原則として選挙による理事の互選とする。

(事務局)

2010年度事業報告及び決算報告

「理事会・総会報告」で報告いたしましたとおり、2010年度事業報告及び決算報告について、総会にて下記のとおり承認されました。

2010年度 事業報告

1. 2010年度事業期間

- ・2010年4月1日～2011年6月30日

2. 事業の概要

- ・2010年10月2～3日 第11回大会開催（会場：長崎ハウステンボス、参加者 103名）
- ・2010年5月 Newsletter No.1 発行
- ・2010年9月 年報13号発行
- ・2010年11月 Newsletter No.2 発行
- ・2011年5月 Newsletter No.3 発行

3. 総会

- ・2010年10月2日（長崎ハウステンボス）

4. 常任理事会

- ・2011年4月3日（北海道大学東京オフィス）

5. 理事会

- ・第1回理事会 2010年6月19日（中村学園大学）
- ・第2回理事会 2010年8月28日（目白大学）
- ・第3回理事会 2010年10月2日（長崎ハウステンボス）
- ・第4回理事会 2010年12月11日（関西学院大学大阪梅田キャンパス）
- ・第5回理事会（書面） 2011年3月
- ・第6回理事会 2011年6月26日（札幌エルプラザ）

6. 各支部活動

(1) 関西支部

- ・2010年12月10日 第7回研究会・設立5周年記念フォーラム（大阪企業家ミュージアム）

(2) 九州支部

- ・2010年6月19日 第6回研究会（中村学園大学）
- ・2011年3月5日 第7回研究会（九州大学箱崎キャンパス）

(3) 北海道支部

- ・2011年2月26日 第2回研究会（北海道大学）
- ・2011年6月26日 第3回研究会（札幌エルプラザ）

(4) 関東支部

- ・2010年8月28日 関東支部設立準備第2回研究会（目白大学）

- ・2011年3月12日 関東支部設立総会（工学院大学新宿キャンパス）

- ・2011年5月28日 第1回研究会（工学院大学新宿キャンパス）

7. その他

- 1) 「2010年度高良記念研究助成」実施
- 2) 会則の改正
 - ・目的の改正等
- 3) 規程の制定・改正
 - ・『インターンシップ研究年報』第14号研究論文投稿規程の改正
 - ・理事選挙規程の改正
 - ・会長選挙規程の制定
 - ・選挙管理委員会規程の制定
- 4) 十周年記念事業の実施
 - ・『日本インターンシップ学会～10年の記録』発行（2011年6月）
 - 5) 理事選挙、会長選挙の実施（2011年5～6月）
 - 6) 会員名簿発行（2011年2月）
 - 7) Webサーバーの移設（2011年4月）
 - 8) WACE（The World Association for Cooperative Education）への加盟（2011年1月）
 - 9) 関東支部の設立
 - 10) 企画研究の実施
 - ・「インターンシップなど産学連携教育を通じた学校から社会への移行システムに関する研究」（科学研究費補助金（B）、2010～12年度、研究代表者：亀野淳）
 - 11) 学会後援・協賛事業 2件
 - ・社団法人東京都専修学校各種学校協会「第17回専門学校教育研究会」に後援（2011年3月18日 主婦会館プラザエフにて（東日本大震災の影響により中止））
 - ・特定非営利活動法人日本インターンシップ推進協会「平成22年度インターンシップ成果発表会」に協賛（2010年12月10日 工学院大学新宿キャンパスにて）

（事務局）

2010(平成22)年度 日本インターンシップ学会 収支計算書
(2010年4月1日～2011年6月30日)

【一般会計】

(単位:円)

支出の部	2010年度予算(a)	2010年度決算(b)	予実差異(b-a)	収入の部	2010年度予算(a)	2010年度決算(b)	予実差異(b-a)
研究会費用	400,000	400,000	0	会費収入	1,687,500	3,894,820	2,207,320
(関西支部)		100,000	100,000	(個人会員)	922,500	2,280,000	1,357,500
(九州支部)		100,000	100,000	(学生会員)	65,000	115,000	50,000
(北海道支部)		100,000	100,000	(法人・団体会員)	700,000	1,499,820	799,820
(関東支部)		100,000	100,000				
大会開催費補助	300,000	300,000	0	研究会収入	0	0	0
年報作成費	450,000	364,665	-85,335	書籍・年報等販売収入	7,000	16,000	9,000
記念事業費	150,000	0	-150,000				
名簿作成費	150,000	151,050	1,050	その他	300	545	245
通信費	180,000	120,543	-59,457	(受取利息)	300	545	245
HP修正・改善費	100,000	0	-100,000	(雑収入)	0	0	0
その他運営費	480,000	216,522	-263,478	大会開催費余剰金	0	0	0
役員選挙費	0	22,050	22,050	関西支部余剰金	0	0	0
				九州支部余剰金	0	0	0
				北海道支部余剰金	0	0	0
次年度繰越金	2,687,870	5,539,605	2,851,735	前年度繰越金	3,203,070	3,203,070	0
合計	4,897,870	7,114,435	2,216,565	合計	4,897,870	7,114,435	2,216,565

【特別会計(高良記念研究助成)】

(単位:円)

支出の部	2010年度予算(a)	2010年度決算(b)	予実差異(b-a)	収入の部	2010年度予算(a)	2010年度決算(b)	予実差異(b-a)
2010年度研究助成金(2件採択)	200,000	200,000	0	受取利息	200	139	-61
振込手数料	1,500	944	-556	余剰金(河野志穂氏)	0	12,670	12,670
次年度繰越金	536,196	549,361	13,165	前年度繰越金	737,496	737,496	0
合計	737,696	750,305	12,609	合計	737,696	750,305	12,609

2010(平成22)年度 貸借対照表兼財産目録(2011.6.30現在)

資産の部		負債・純資産の部	
手持現金	28,344		
預金	6,060,622	固定負債	0
北洋銀行(一般会計)	2,539,647		
北洋銀行(特別会計)	549,361	純資産	
郵便振替口座	2,971,614	剰余金	6,088,966
		(一般会計繰越金)	5,539,605
固定資産	0	(特別会計繰越金)	549,361
資産合計	#REF!	負債・純資産合計	6,088,966

(注)本来は貸借対照表と財産目録を個別作成する必要があるが、財産が僅少のため当面本表にて対応することとする。

2011 年度事業計画及び予算

「理事会・総会報告」で報告いたしましたとおり、2011年度事業計画ならびに予算について、総会にて下記のとおり承認されました。

2011 年度 年間事業計画

1. 2011 年度事業期間: 2011 年 7 月 1 日～

2012 年 6 月 30 日

2. 事業の概要

(1)第 12 回大会の開催 (会場: 鳥取大学)

2011 年 9 月 17 日 (土) ～ 18 日 (日)

(2)研究会の開催 (各支部年 2～3 回程度)

(3)年報 14 号の刊行

(4)News Letter の発行 (年 2 回)

(5)「第 5 回 高良記念研究助成」実施

(6)ホームページの充実:

新 URL <http://www.js-internship.jp/>

(7)新たな表彰制度の創設

(8)組織運営のあり方についての検討

(9)その他

(事務局)

2011(平成23)年度 日本インターンシップ学会 一般会計 予算

一般会計【収入の部】

(単位:円)

大科目	中科目	2011年度予算額	前年度予算額	2010年度実績	2009年度実績	2008年度実績	予算増減	備考
会費収入	小計	715,000	1,687,500	3,894,820	1,840,000	2,230,000	-972,500	
	個人会員(10,000円)	490,000	922,500	2,280,000	1,020,000	1,130,000	-432,500	
	学生会員(5,000円)	25,000	65,000	115,000	60,000	60,000	-40,000	
	法人・団体会員(20,000円)	200,000	700,000	1,499,820	760,000	1,040,000	-500,000	
事業収入	小計	7,000	7,000	16,000	7,000	29,500	0	
	研究会収入	0	0	0	0	9,000	0	
	書籍・年報等販売収入	7,000	7,000	16,000	7,000	20,500	0	
雑収入	小計	119,300	300	545	276,874	148,407	119,000	
	受取利息	300	300	545	317	354	0	
	その他の収入	0	0	0	0	0	0	
	大会開催費余剰金	0	0	0	181,154	75,040	0	
	関西支部余剰金	17,000	0	0	0	37,380	17,000	
	九州支部余剰金	72,000	0	0	28,363	35,633	72,000	
	北海道支部余剰金	19,000	0	0	67040	0	19,000	
	関東支部余剰金	11,000	0	0	0	0	11,000	
当期収入合計(A)		841,300	1,694,800	3,911,365	2,123,874	2,407,907	-853,500	
前期繰越収支差額		5,539,605	3,203,070	3,203,070	2,678,818	1,740,109	2,336,535	
収入合計(B)		6,380,905	4,897,870	7,114,435	4,802,692	4,148,016	1,483,035	

一般会計【支出の部】

大科目	中科目	2011年度予算額	前年度予算額	2010年度実績	2009年度実績	2008年度実績	予算増減	備考
事業費	小計	1,444,168	1,450,000	1,237,765	1,186,605	1,057,888	5,832	
	研究会開催費	400,000	400,000	400,000	394,329	219,149	0	
	研究会費用(関東)	100,000		100,000	53,366	19,149		
	研究会費用(関西)	100,000		100,000	140,963	100,000		
	研究会費用(九州)	100,000		100,000	100,000	100,000		
	研究会費用(北海道)	100,000		100,000	100,000	0		
	大会開催費	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	0	
	年報作成費	450,000	450,000	364,665	328,830	354,710	0	
	記念事業費	294,168	150,000	0	68,977	88,188	-144,168	
	役員選挙費	0	0	22,050	94,469	0	0	
	名簿作成費	0	150,000	151,050	0	95,841	150,000	
事務管理費	小計	650,000	760,000	337,065	413,017	411,310	110,000	
	通信費(郵送料等)	150,000	180,000	120,543	94,928	69,610	30,000	
	HP修正・改善費	100,000	100,000	0	8,000	14,000	0	
	その他運営費	400,000	480,000	216,522	310,089	327,700	80,000	
当期支出小計		2,094,168	2,210,000	1,574,830	1,599,622	1,469,198	115,832	
予備費	予備費	4,286,737	2,687,870	5,539,605	3,203,070	2,678,818	-1,598,867	
当期支出合計(C)		6,380,905	4,897,870	7,114,435	4,802,692	4,148,016	-1,483,035	
当期収支差額(A)-(C)		-5,539,605	-3,203,070	-3,203,070	-2,678,818	-1,740,109	2,336,535	
次期繰越収支差額(B)-(C)		0	0	0	0	0	0	

2011(平成23)年度 日本インターンシップ学会 特別会計 予算

特別会計【収入の部】

(単位:円)

大科目	中科目	2011年度予算額	前年度予算額	2010年度実績	2009年度実績	予算増減	備考
寄付金		0	0	0	0	0	
積立金	小計	0	0	0	0	0	
雑収入	小計	100	200	12,809	32,092	100	
	受取利息	100	200	139	252	100	
	その他の収入	0	0	12,670	31,840	0	
当期収入合計(A)		100	200	12,809	32,092	100	
前期繰越収支差額		549,361	737,496	737,496	800,929	188,135	
収入合計(B)		549,461	737,696	750,305	833,021	188,235	

特別会計【支出の部】

大科目	中科目	2011年度予算額	前年度予算額	2010年度実績	2009年度実績	予算増減	備考
高良記念研究助成金		200,000	200,000	200,000	95,000	0	
事務管理費	小計	1,000	1,500	944	525	500	
	振込手数料	1,000	1,500	944	525	500	
	その他	0	0	0	0	0	
予備費	予備費	348,461	536,196	549,361	737,496	187,735	
当期支出合計(C)		549,461	737,696	750,305	833,021	188,235	
当期収支差額(A)-(C)		-549,361	-737,496	-737,496	-800,929	-188,135	
次期繰越収支差額(B)-(C)		0	0	0	0	0	

年報編集委員会報告

年報第 14 号の発刊が例年より大幅に遅れており、非常に申し訳なく思っております。現状では、編集の最終段階を迎えています。今回は投稿 5 本のうち、委員会で慎重に検討しました結果、4 本を採択すること（論文、研究ノートまたは資料のいずれかです）になりました。お手元に届くまでもうしばらくお待ちいただけますよう、お願い申し上げます。

（年報編集委員会 前委員長 安孫子 勇一）

並行して、年報第 15 号への投稿をお待ちいたしております。締切は 2012 年 2 月 29 日(水)です。第 15 号の研究論文投稿規程は、新編集委員会での調整が済み次第、学会 web サイトに掲載いたします。投稿規程を守っていない場合には査読の対象から外すことがありますので、投稿前に必ず学会 web サイトを確認した上で、投稿規程をしっかりとって原稿を作成し、投稿してください。

ところで、9 月に開催された学会の年次大会にて、会員アンケートの結果として年報の質の向上を求める声があったことが報告されました。新編集委員会としても、その声を真摯に受け止めていきたいと考えています。

年次大会最終日での館昭副会長の言葉を借りれば、「インターンシップ研究では学術性と実践性の両者が必要」であり、特に実践事例を取り扱う場合には「理論的な課題と結びつけて、事例を見る」こと、そしてなにより「それを担当しているからというのではなく、なぜその事例を選ぶのかという相対化」が必要です。これらはインターンシップを「科学する」第一歩であり、ドナルド・ショーンの言う反省的実践家(reflective practitioner)につながる態度でもありますが、まずこうした態度をとれるかどうか、インターンシップ研究の質を大きく左右します。

ただし、こうした態度で書かれたものであっても、課題設定や課題に対する検証方法が適切でなかったり、検証結果や事実や当事者の想いをただ断片的に並べ立てただけであったりすれば、残念ながら研究論文としての評価は難しくなります。

「科学する」ことは、普段生活している文脈から自らの思考を一旦解き放つことであり、その解放は、経験値では見えなかった新たな視点をもたらしてくれます。会員諸氏による、インターンシップ全体の発展に寄与するような意欲的な研究を、お待ちしております。ふるってご投稿ください。

（年報編集委員会 新委員長 稲永 由紀）

広報委員会報告

新 web サイトのご案内

2011 年 9 月 20 日より、学会 web サイトのサーバーが新サーバーに変更されました。新 web サイトは下記のとおりです。会員の皆様におかれましては、新 web サイトへの登録変更をお願いいたします。

また、新 web サイトの開設に伴い、北海道支部、

関東支部のページも加わり、北から順に 4 支部へと改訂されました。今後、各支部担当の広報委員から支部のイベント等に関する情報発信を検討しております。

日本インターンシップ学会 新 web サイト

<http://www.js-internship.jp/>

研究業績ならびに取り組み事例の web 掲載について

学会員の研究等に関する情報共有の場として、web サイトに「会員・大学のキャリア関連業績ページ（仮称）」を開設することになりました。掲載にあたっては、原則、個人およびグループでのインターンシップに関する活動（著書・論文紹介、研究助成金の申請、共同研究の実施など）を予定しております。掲載の可否等については、広報委員会で検討された後、web サイトに掲載される予定です。近刊の著書など情報発信を希望される方は広報委員会宛にお問い合わせ下さい。

メルマガ発行について

学会 web サイトに掲載された最新記事をメルマガ配信にてご案内することになりました。現在広報委員会では、メルマガのシステムを検討中ですが、システムが完成するまでのしばらくの間、学会名簿にアドレス掲載のある会員の皆様宛にメルマガ配信を行っております。今後配信が不要な方、また配信をご希望の方は広報委員会 (jsi.prc@gmail.com) までご連絡ください。

（広報委員会委員長 石田 宏之）

企画研究 WG 報告

2 年前に発足した企画研究ワーキンググループでは、会員の学術研究の促進のために、広く会員が関与できる共同研究を企画・推進していくことを目指して活動して参りましたが、これからの 2 年間、新メンバーによる活動を継続してまいります。これまでに、亀野淳会員による平成 22 年度科学研究費補助金基盤研究 (B)「インターンシップなど産学連携教育を通じた学校から社会への移行システムに関する研究」(平成 24 年度まで)、椿明美会員による平成 23 年度科学研究費補助金基盤研究 (B)「大学から職業への移行を促すインターンシップを軸としたキャリア教育研究」の採択・実施について報告しておりました。

この度、文部科学省平成 23 年度「先導的大学改革推進委託事業」として、九州大学が「国内外における産学連携によるキャリア教育・専門教育の推進に関する実態調査」を企画し、採択されました。これは、吉本圭一会員ほか本学会員が主導して実施するもので、海外調査として米豪独英の 4 カ国に焦点をあて、COOP 教育やプラクティクムなどの産学連携教育の実態とその推進施策、学術と職業の資格制度を統合した学位・資格枠組みの展開を調査研究することです。

2012年3月16-17日には、九州支部と合同で、この委託事業の調査研究成果の検討・協議のためのセミナー開催が予定されています。このセミナーでは、海外諸国におけるインターンシップ・COOP教育などの実態やその応用・展開について研究されてきた会員による部会編成も計画されていますので、発表等でご協力いただける会員の皆様は、ぜひ本WGまでご連絡をお願いいたします。

(企画研究WG委員長 吉本 圭一)

10周年記念事業WG報告

2010年度NEWS LETTER第3号でもご報告の通り、『日本インターンシップ学会』～10年の記録～の編纂を終え、会員の皆様には6月末にはお届けした次第です。

この10周年記念誌は、①はじめに～学会10周年を祝して、②インターンシップが認知・導入される夜明けの時代、③日本インターンシップ学会組織の変遷、④日本インターンシップ学会大会ならびに研究会の動向、⑤過去10年間における特色あるインターンシップの取組み事例、⑥会員アンケート調査からみた学会活動の現状とインターンシップ拡充に向けての課題、⑦資料などの章から構成されており、学術資料としても有益だと考えています。会員の皆様には是非とも有効活用をお願いする次第です。さらに、わが国インターンシップの現状と各目次に関しては英文でも紹介しており、外国人研究者に対しては便宜を図っています。

10周年記念事業は、日本インターンシップ学会第10回大会、関係省庁をお招きしての10周年記念フォーラムを既に開催済みであり、今般の10周年史の発刊をもって、WGの事業は終了することになります。

次の10年を目指して、今から資料の収集や各支部での研究会の概要など、情報の整備に努めたいと考えています。今後とも会員各位のご協力をお願いいたします。

(10周年記念事業WG委員長 田中 宣秀)

2011年度(第5回)高良記念研究助成対象者決定

本学会では、インターンシップに係る研究や実践活動の発展・普及のため、また会員相互の研究交流の促進を図ることを目的として、優れた研究課題へ研究助成を行っています。

2011年度(第5回)研究助成には、3件の応募があり、審査委員会の厳正な審査により、次の2名に対し研究助成を行うことが理事会において決定しました。

・高橋秀幸会員(北海道大学大学院教育学院・教育学専攻博士後期課程)

「商業高校における販売実習からインターンシップへの変化」助成額10万円、単独研究

・手嶋慎介会員(愛知東邦大学・助教)

「地域連携による短期インターンシップの実施体制の現状と課題—大学と社会的企業の連携事例の比較調査を中心に—」助成額10万円、単独研究
研究期間は2012年9月末までの1年間で、2012年の大会において研究成果を発表することになります。また、その1ヵ月後までに「研究終了報告書」と「研究経費使用報告書」を学会事務局に提出いただきます。

2010年度助成対象者による研究成果発表

2010年度研究助成を受けた以下の2名の研究成果が、2011年9月の第12回大会(鳥取大学)において発表されました。

・田崎悦子会員(北海道大学大学院 教育学院・博士後期課程1年)

「インターンシップが職業選択、職業能力に与える影響と効果～社会人のふりかえりによる視点～」

・酒井佳世会員(久留米大学 就職・キャリア支援課)

「大学における教育プログラムとしての実習・ボランティア・アルバイトとの比較研究」

なお、2012年度(第6回)の研究助成応募期間は来年4月～6月を予定しておりますが、詳細は次号のNEWS LETTERにてご連絡します。

(高良記念研究助成審査委員長 椿 明美)

2011-2012年度役員について

2011年度総会におきまして、2011-2012年度役員が下記のとおり決まりました。(五十音順、敬称略)

●会長

吉本圭一

●副会長

太田和男、加藤敏明、館昭

●常任理事

安孫子勇一、石田宏之、稲永由紀、江藤智佐子、
亀野淳、古閑博美、田中宣秀、長尾博暢、真鍋和博、横山皓一

●理事

今井久登、牛山佳菜代、折戸晴雄、桂川保彦、
見目喜重、沢田隆、高橋保雄、田崎悦子、椿明美、
富田宏治、中原淳二、那須幸雄、横山修一、渡邊和明

●監事

伊藤文男、小川浩平

●顧問

天谷正、金田昌司、田村紀雄、榎本淳子

●名誉会長

高良和武

(事務局)

2011-2012 年度委員会構成について

2011-2012 年度役員選出を受けて、2011-2012 年度委員会等構成が下記のとおり決まりました。(五十音順、敬称略)

●事務局 (◎は事務局長)

岡田敬志、◎亀野淳、高橋秀幸、田崎悦子

●年報編集委員会 (◎は委員長、○は副委員長)

○安孫子勇一、伊藤文男、◎稲永由紀、見目喜重、新谷康浩、長尾博暢、廣瀬幸弘、福岡哲朗

●広報委員会 (◎は委員長、○は副委員長)

青野友太郎、◎石田宏之、○江藤智佐子、岡本信弘、見目喜重、小林純、高橋秀幸、中原淳二、八木章

●2011 年度高良記念研究助成審査委員会

(◎は委員長)

牛山佳菜代、川井良介、◎椿明美、富田宏治、真鍋和博

●企画研究ワーキンググループ

(◎は委員長、○は副委員長)

稲永由紀、牛山佳菜代、江藤智佐子、折戸晴雄、○亀野淳、古閑博美、田崎悦子、高橋保雄、椿明美、長尾博暢、◎吉本圭一

●楨本記念賞ワーキンググループ

(◎は委員長、○は副委員長)

安孫子勇一、◎加藤敏明、古閑博美、沢田隆、高橋保雄、田崎悦子、○田中宣秀、中原淳二、真鍋和博

●組織運営ワーキンググループ

(◎は委員長、○は副委員長)

石田宏之、太田和男、加藤敏明、亀野淳、沢田隆、◎館昭、長尾博暢、中原淳二、○横山皓一、渡邊和明

(事務局)

支部活動報告

北海道支部

北海道支部 第3回研究会を開催

北海道支部では2011年6月26日(日)に第3回研究会を札幌市男女共同参画センターにて開催しました。道内会員・非会員はもとより、同日当地で学会理事会が開催されたことにより、道外の理事の方々にも多数御参加いただきました。

今回はテーマを「インターンシップがつなぐ中小企業と大学生」と設定しました。昨今は大企業の就職活動の一環として取り上げられることが多くなったインターンシップですが、大多数の学生における就職先は中小企業です。インターンシップは中小企業

にとってどのような意味を持つのか、また中小企業を希望する学生にとってメリットとなるのかという課題について、講演を中心に議論いたしました。

はじめに北海道中小企業家同友会専務理事の細川修氏より「中小企業における人材育成とインターンシップ」と題し、講演が行われました。北海道の中小企業の現状とともに、同友会による会員企業向けのインターンシップ支援活動の事例が紹介されました。

続いて、インターンシップにおける学生と企業のマッチングを行う団体・ピオネイロ代表の濱中裕之氏から活動の趣旨説明や現況報告が行われました。また取組事例として、実際にインターンシップを行った北向和也氏(札幌市立大学)と受入企業である株式会社アイドウ専務取締役の金田日悟氏を加えたパネルディスカッションにより、受入の感想や今後の課題などについて会場との議論が行われました。

北海道支部では今後も理論と実践を両立できる研究活動を目指し、研究会活動を行って参ります。

(北海道支部事務局 小林 純)

関東支部

関東支部 第1回フォーラムを開催

2011年5月28日(土)に、工学院大学新宿キャンパスにおいて関東支部第1回フォーラムを開催しました。テーマは「国際インターンシップの展望と課題—職業指導(キャリアガダンス)を」念頭において、学会員、非会員を含めて全国から50名の参加者がありました。

佐藤勝彦会員から、「国際インターンシップの展望と課題—インターンシップ10年の経験から考える」と題する基調講演をいただきました。また、プレーメン工科大学卒業生ブッフホルツ氏より「日本におけるインターンシップ経験」、文教学院大学生 及川舞氏から「英国のインターンシップ」、学習院大学生 福井彩香氏より「中国でのインターンシップの実例」の報告があったほか、合計10名の方々から発表されました。研究会後には情報交換会を行い、非会員、会員が活発に交流しました。

関東支部 第2回研究会を開催

2011年10月8日(土)、玉川大学において、関東支部第2回研究会を、「観光インターンシップの課題—新しい国造りのために—」のテーマで開催しました。学会員、非会員を含めて全国から60名の参加者がありました。その模様は、観光経済新聞10月15日号で報道されました。

基調講演として、折戸晴雄会員より、「観光インターンシップの今後の展望」を、国土交通省観光庁 観光地域振興部部長 志村格氏より、「わが国の観光行政とインターンシップ」をそれぞれいただきました。また、塩島賢次氏より、「ホテル業界のインターンシップとキャリア教育効果の実態」、伊藤滋子会員からは「航空業界のインターンシップとキャリア開発効

果」、矢嶋敏郎氏より「旅行業界のインターンシップの現状」、那須幸雄会員からは「観光インターンシップとキャリア開発効果」についての報告がありました。研究会後には情報交換会を行い、非会員、会員が活発に交流しました。

(関東支部支部長 太田 和男)

関西支部

関西支部は2009年度に設立5周年記念フォーラムを開催し、併せて報告書をまとめました。さらに2010年度、これまでの総括の意味合いを含めた「秀逸なインターンシップ」の研究発表を行っています。2011年度は学会大会を支部共催としたことでひとまず活動の節目と位置付け、2012年度以降の活動方針を検討しております。来年2月には(拡大)支部運営委員会の開催を予定しており、運営委員に加え、関西域の気鋭研究者などに呼び掛けた会合を通じて、今後の中長期的な活動計画を策定してゆく計画です。

(関西支部支部長 加藤 敏明)

九州支部

九州支部 2011年度第1回研究会を開催

九州支部では、去る2011年8月23日に今年度の第1回研究会を開催しました。テーマは「学生と地域が注目するインターンシップ」とし、福岡地区の企業におけるインターンシップの効果事例をご発表いただきました。まず、福岡トヨタ自動車株式会社からは、ホスピタリティ教育を行うことが中長期的な「トヨタファン」を醸成することに寄与していることをお話いただきました。次に、株式会社談のご発表では、プログラム化されていない現実の「仕事」を体験させ、それを暖かくサポートする社員がいることでインターン生が成長するというお話を頂きました。最後に株式会社NTT西日本-九州からは、しっかりとプログラム化されたインターンシップで数多くの希望者を受け入れ、企業・業界理解を促している事例をご紹介いただきました。

また、今回の研究会は、九州インターンシップ推進協議会設立及び福岡県インターンシップ推進協議会発足10周年記念事業と共催にて開催致しました。

2000年8月に産学官の連携により設立された福岡県インターンシップ推進協議会は、九州各県のインターンシップ推進組織を束ねながら、さらなる飛躍を期して今年5月に「九州インターンシップ推進協議会」として新たなスタートを切りました。

今回の研究会は、大学関係者のみならず、企業関係者、学生など数多くの皆さまにご来場いただきました。次回は2012年3月頃開催の予定です。

(九州支部副支部長 真鍋 和博)

事務局からのお知らせ

会員情報変更の連絡について

所属・住所等が変わりましたら、速やかに事務局宛お届けください。連絡先が不明になりますと、年報ニューズレター、大会案内などの会員サービスが受けられなくなりますので、ご注意ください。

会費納入のお願い

2011年度会費納入を受け付けております。会費未納の方は、今回お送りいたしました郵便振替用紙か郵貯銀行からの振込(ゆうちょ銀行に口座をお持ちの方は手数料が無料です)で、下記振込先までお送り下さいますようお願いいたします。銀行振込でも受け付けております。

会費納入先

【郵便振替】

口座番号 02750-1-108419

加入者名 日本インターンシップ学会

【ゆうちょ銀行】

店番 279 (当座) 108419

【銀行振込】

北洋銀行 北七条支店(普通) 3927955

受取人名 日本インターンシップ学会

(電信振込の場合は、「ニホンインターンシップガッカイ」と入力下さい。)

(事務局)

日本インターンシップ学会 News Letter 2011 No.1

平成23年11月10日発行

発行 日本インターンシップ学会 会長 吉本 圭一

編集 日本インターンシップ学会広報委員会 委員長 石田 宏之

印刷 日本インターンシップ学会事務局 事務局長 亀野 淳

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目

北海道大学 高等教育推進機構 高等教育研究部 キャリア教育支援室内

E-mail jsi-sec@high.hokudai.ac.jp 電話&FAX 011-706-5147

Website http://www.js-internship.jp/